

# みんなと一緒に考えよう 地域の課題・地域のあした

未曾有の被害をもたらした  
 昨年の東日本大震災。私たちは  
 自然の脅威を目的の当たりに  
 しましたが、復興に向けて苦  
 難に立ち向かう被災者の方や  
 その支援者の姿に人と人との  
 絆の大切さを実感された方も  
 多いと思います。

また最近、各地で孤独死  
 が相次ぎ、家族や地域とのつ  
 ながりの希薄さを危惧する報  
 道を目にすることも多くなっ  
 ています。

いま、絆・信頼・支えあい・  
 ネットワークなど、「人と人  
 との間に存在する目には見え  
 ない大切なもの」こそが、地  
 域の力そのものであることが  
 認識されています。

現在、下呂市の高齢化率は  
 33%、高齢者世帯率も26%を  
 超えています。公的サービス  
 にも限りがある中で、いま求  
 められているのは、地域の中

での助けあい支えあいによる  
 共助社会の構築であり、その  
 原動力となるのがまさに人と  
 人とのつながりです。

さり気なく手助けをする人  
 がいて、気軽に助けを求める  
 「助けられ上手」な人がいる。  
 街中に支えあいや助けあいの  
 輪が自然に広がり、いつも誰  
 かとつながっていることが実  
 感できる…そんなまちづくり  
 を目指して「下呂市地域福祉  
 計画・地域福祉活動計画」は  
 策定されました。

「自分たちの住む地域は自  
 分たちで作っていききたい…」  
 そんな思いを実現できるよう  
 に、市と社会福祉協議会では、  
 地域の生活課題やニーズを話  
 し合う地区福祉懇談会や福祉  
 のまちづくり会議等を各地区  
 で開催していく予定です。ぜ  
 ひご参加ください。

～今、私たちにできること～

## 福祉によるまちづくり会議 を開催

3月24日：星雲会館  
 3月25日：下呂交流会館

この会議は「このまちは、みんなが安心して暮らせるね。これからも住み続けたいね。」と誰もが思う下呂市になることを願い、地域の皆さんが主役となって支えあいの社会を作っていくきっかけづくりのために開催されました。参加者のみなさんは、グループに分かれて“いま自分で出来ることは何か”を考え、話し合いました。今回はそのグループ討議の中の意見の一部を紹介します。会議の後には「自分の意識を変えるいいきっかけになった」「いろんな世代の人と話ができて大変良かった」といった声をたくさんいただきました。

### いま自分たちで出来ること

子どもやお年寄りの見  
 守りや声かけをする

地域のいいところを学  
 んで伝える

余った野菜などをおす  
 そ分けする

節電やリサイクルに努  
 める

お年寄りの代わりに車  
 で買い物などに行く

地域の行事に積極的  
 に参加する

自宅や隣近所の除雪や  
 草取りをする

人を思いやり、家族  
 を大切にする

防災グッズや避難場  
 所等を確認しておく



自分の暮らすまちだから、自分たちで何とかが良くしたい。そんな思い  
 があふれた2日間でした。こうした思いや願いを形にする活動が、市内  
 にどんどん広がっていくことを願っています。



南三陸町で活動に参加した女子高校生

避難所設置などモノ・人に関わる供給体制については整っている

◆人的支援の活用

市では、支援物資の提供や

◆インタビューを終えて

お二人から活動の話を知

◆うれしかったこと

宮城県岩沼市の被災地で、一日中働いてがれきの山を片

◆日本と欧米とのちがい

欧米では、資金力のある人が

◆地域力

災害時、若者は消防団などに行

なご参加をお願いします。

◆復興支援活動のきっかけ

3・11の東日本大震災直後の4月、鎌倉さんは知人と被災地復興支援のため現地を訪れ、荒れ果てた光景に絶句。その体験から旧知の仲である今井さんと、「K1Pプロジェクト」を立ち上げました。これまでの11回にも及ぶボランティア活動で、延べ500名以上の参加者がありました。

づけ終わると、家主が「あんたらのおかげで、もう一度頑張ろうと、生きる気力」がわいてきた」と感謝されたことが、本当にうれしかった。逆にこちらが元気をもらったようなものです。

るようです。しかし、人とモノをつなぐ手段は、人にほかならないのではないしょうか。防災訓練でも、人的支援の活用（ボランティアセン

ターの設置・運営）を盛り込んでほしい。NPO団体等との協定により、市内外からの支援を期待できると思う。行政の手が届かないところを自分たちの力で補う。これこそが「地域力」だと思う。

平成24年度の市政方針では、自助・共助・公助による「元氣な下呂市」を実現するために、地域力の強化を掲げています。地域のことばは地域で、自分たちのことは自分たちで解決する。そんな地域社会を目指して「地域づくりワークショップ」を開催していきます。詳細は広報紙などを通じてお知らせしていきますので積極的に

継続されるとのことでした。皆さんの記憶から震災が風化してしまわないようにとの願いを込めて。

今後もボランティア活動を

主自立の道を歩みながら、

り組んでいる姿でした。自

ら、全てのことから受け

入れて、明るく前向きに

今なぜ、「地域力」が

必要とされるのか？

震災復興ボランティア活動を通じて「K1Pプロジェクト」

今、市では地域福祉計画など、さまざまな計画が立案され、今後の指針となっていますが、いずれの計画も中心にあるのは、市民の皆さんであり「人」地域です。ここでは、東日本の震災復興ボランティア活動に取り組む「NPO法人K1Pプロジェクト」(気持ちはいっしょプロジェクト)の鎌倉さんと今井さんへのインタビューで、活動を通じての思いや地域力の重要性について語っていただきました。



鎌倉庄司さん/46歳  
NPO法人K1Pプロジェクト 理事長

きながら感じたことは、これだけの活動を続けながら、全てのことから受け入れて、明るく前向きに取り組んでいる姿でした。自主自立の道を歩みながら、今後もボランティア活動を継続されるとのことでした。皆さんの記憶から震災が風化してしまわないようにとの願いを込めて。



今井亨さん/40歳  
NPO法人K1Pプロジェクト 理事

募集

看護師再就職支援研修会

～もう一度働きたいあなたへ～

結婚や子育て、介護などで退職した看護師の方を対象に、職場復帰を支援する研修会を開催します。参加無料。

◆日時 6月22日(金) 9時30分～15時15分  
10月26日(金) 9時30分～15時15分

※半日の参加も可。

◆会場 下呂温泉病院本館4階(403号室)看護部室

◇問合先 下呂温泉病院看護部 ☎25-2820 内線1400

短信

下呂温泉病院との合同研修会開催

市と県立下呂温泉病院では、妊産婦や乳児期の母子の連携した支援活動を行おうと、5月16日、下呂温泉病院で橋本武夫医師を招き保健師や助産師などのスタッフを対象に研修会を開催しました。

子育ては妊娠期からスタート。早い時期に母子の愛着形成が図られること

が重要であり、専門家がプロとしてそれを支えることが大切であることを確認しました。この時期に関わるスタッフが統一した内容で母子を支援していけるよう、市と下呂温泉病院では今後もスタッフの定期的な学習会等を開き、連携の構築を図っていきます。

【健康医療部健康課】